

下関市立大学広報

2004年10月1日 第44号

発行

下関市立大学広報委員会

山口県下関市大学町2-1-1

TEL 0832 (52) 0288

FAX 0832 (52) 8099

<http://www.shimonoseki-u.ac.jp/>

(編者 中山孝名誉教授)

オープンキャンパス 2004 300名を超える参加者

7月31日(土)、恒例のオープンキャンパスが開催された。前日の時点では台風10号の直撃も予想され、開催がやぶまれたが、当日は幸いにも降雨に見舞われることもなく、無事にすべてのスケジュールをこなすことができた。参加者も、姫路や熊本の遠方組を含めて308名を数えた(昨年度は279名)。このほか並行して行われた産業文化研究所の創設15周年記念講演会(参加者20数名)や、大学院の入試説明会・院生研究発表会の参加者を含めると、全体で370名を超える高校生・市民が参加したことになる。台風の接近という悪条件を考えれば、予想外の大勢の参加者が集まった。

今年は、産業文化研究所の講演会を復活させたほか、模擬授業の数を増やし、午前2つ、午後3つの授業を行ったが、雨の足を心配したのか、午後の授業への参加者が少なかったのが残念であった。アンケートにみるかぎり、全体のメニューは概ね好評であり、回答を寄せた104人のうち、「良かった」が71人、「普通」が32人、「良くなかった」が1人であった。参加者のほとんどが本学の受験を希望しており(回答者102人のうち90人が受験予定、未定が9人)、オープンキャンパスに参加して、受験意欲を強めたとの回答も目立った。反省点としては、当日、協力してくれた約60名の在学生以外に、学生の姿がほとんど見受けられなかったことである。普段の大学の姿をみてもらうためにも、この点で工夫が必要である。また遠方から参加しやすくするため、時間帯を遅らせることなどを検討してよいであろう。



2005年度大学院入試

9月18日(土)、大学院の入試が行われた。経済社会システム専攻(定員5名)に1名、国際ビジネスコミュニケーション専攻(定員5名)に5名の受験があったが、6名全員が合格した。国際ビジネスの5名のうち、1名は交流友好校特別選抜制度による青島大学からの派遣である。また他の4名のうち、3名が留学生であった。昨年度の同時期の入試と比べて(昨年度は、受験者が2名と16名、合格者が1名と7名)、受験者は減少した。来年、3月中旬に2次募集が行われる。



青島大学 夏学長 来学

6月29日、本学の友好交流校である青島大学の夏臨學長と房建軍・国際交流合作処主任が来学した。下関市と青島市の友好都市締結25周年および本学と青島大学との友好校締結15周年を記念して、本学と下関市日中友好協会との共催によって「第5回中国語弁論大会」が開催されるのを機に実現したものである。29日夜に、川棚で歓迎レセプションが行われ、翌日は本学教員との懇談、青島大学交換留学生との歓談、弁論大会、続いて「国際交流会ともだち」の主催による「世界の厨房から」への出席と、多忙なスケジュールであったが、市民・学生・教職員との和やかな交歓が行われた。10月中旬には、青島大学で友好校締結15周年記念式典が開催されるのに合わせて、本学から教職員の訪問団が出かける予定であり、再会を期しての別れとなった。



産業文化研究所創立15周年 記念講演会



さる7月31日、本学の附属産業文化研究所はオープンキャンパスと連動して、〈海峡都市「関門」の共同研究：これまでとこれから〉と題した特別講演会を学術センター3階会議室にて開催した。同研究所の設立15周年を記念してのもので、来場の市民や学生20数名を前に、その歩みや成果を概括するとともに、今後の展望について議論がかわされた。

講演会では、まず、研究所元所長である本学の吉津直樹教授が「産業文化研究所と関門地域共同研究」と題して基調講演を行なった。地元地域の経済産業活動に関する研究拠点をめざして始まった研究所の15年間の歩みを振り返り、北九州市立大学とのユニークな共同研究である関門地域共同研究の経緯や意義にも触れ、地元・地域への知的貢献に積極的な役割を果たすことが期待されると結んだ。

次いで、「関門地域共同研究の10年—北九州市立大学との共同研究から—」として、学内外からの共同研究参加者3名が報告した。宗近孝憲氏（山口経済研究所・調査研究部長）が「地域社会とシンクタンク」、松永裕己氏（北九州市立大学産業社会研究所・助教授）が「環境にやさしい関門地域へ」、そして本学の高嶋正晴助教授が「関門地域と観光振興」と題して、それぞれ報告を行なった。

第5回中国語弁論大会



今年で5回目となる中国語弁論大会が、6月30日、233番教室において盛大に行われた。今回は、下関市・青島市の友好都市締結25周年および下関市立大学・青島大学の友好校締結15周年を記念して、下関市日中友好協会と本学との共催によって行われたほか、青島大学の夏学長に遠路お越しいただいた。当日は、70余名の参加者が朗読、暗唱、弁論の各部門にわかれて、日頃の練習の成果を競い合った。

Paul McGree（クイーンズランド大学交換留学生）

弁論大会というのは、観衆にとっては一時的なイベントかも知れませんが、実はそうではありません。沢山の学生がずっと前から先生と力を合わせ、団結して行うという背景がそこにはあります。出場者は自分の弁論の練習をしながら、司会や受付、冊子の作成などをすべて順調に行くよう、死にもの狂いで頑張っていました。そして私がこの弁論大会で得たものは、困難と悲嘆を克服する活力を与えてくれた友情と団結の素晴らしさです。市大で勉強させて頂いた事に心から感謝申し上げます。

西 川 雄 一（国際商学科2年）

今回で3回目の出場です。前回より少しでもいいものになろうと練習に励みました。練習を通じて中国語と触れ合う時間を持つことができ、自分の中国語にはほんの少し自信が持てるようになりました。中国語を学習する上で、中国語弁論大会の存在価値はとても大きいのです。このような目標ができると、同じ学習パートナーの繰り返しではなく、モチベーションの高い状態を保つことができます。今後もこの経験を生かし、レベルアップをはかりたいです。



「世界の厨房から」

「国際交流会ともだち」

部長 梶 谷 哲 平

6月30日に下関市立大学で青島大学の夏臨華学長を招いて、私達「国際交流会ともだち」が主催する「世界の厨房から」というイベントを開催しました。これは留学生達の母国の料理をふるまい、国際交流を多くの人達に体験していただきたいと毎年開催しているイベントです。

今年は中国語弁論大会の後の食事会という例年とは異なった形で行われたのですが、来賓の方々や市大の学生だけでなく、平日ながら多くの一般の人達にもご来場頂き、部員一同嬉しさと感謝の気持ちで一杯になりました。

今回の料理は中国の水餃子、韓国のカキ、トルコのキョフテというハンバーグ等、個性様々なカ国の料理を用意したのですが、最初は楽しんでもらえるかどうか皆不安もありました。しかし実際は料理が各国全て完売という最高の結果を得ることが出来ました。

さらに、催し物として留学生による日本舞踊もとても好評でした。彼らの堂々とした踊りは、短期間ながら一生懸命努力した証だと思います。留学生の皆も、市民の皆様にも楽しんでもらいたいと、勉強で忙しい中がんばってくれました。

10月29日から11月1日まで行われる大学祭では他大学の留学生も参加する「日本語弁論大会」を開催します。留学生達の様々な気持ちや思いを聞くことのできる場でもあるので、ぜひご来場下さい。

大学院入試説明会・研究発表会の開催

去る7月31日、大学オープンキャンパス当日、来年度入試説明会と研究発表会が開催されました。前者には4名、後者には2会場で33名の出席者を見、それぞれ活発な質疑応答がくり広げられました。研究発表会の内容は以下の通りです。

【26番教室】

- ・岩佐健太郎「長良川流域の人々の川とのかかわり方の変遷に関する研究」……………中間発表
- ・高田裕子「中世から近世移行期の銭貨流通—九州における考古資料を中心に—」……………中間発表
- ・青木正子「韓国施設児童に対する自立支援—韓国児童養育施設訪問調査—」……………中間発表
- ・高田和也「対馬朝鮮間の歴史的考察—近代日朝貿易と対馬商人の朝鮮進出—」……………中間発表

【27番教室】

- ・孫達明「日本語の視点から見た把構文の特徴」中間発表
- ・バン研「中国・ハイアール集団の成長戦略の一考察—各発展段階における経営戦略の視点から—」……………修論発表
- ・元村匠「ソリューションビジネスのための主成功要因—ソリューションベンダーの役割と顧客との最適な関係とは—」……………中間発表
- ・伊藤根「スポーツによる地域振興に関する研究」……………修論発表

パワーポイントをあざやかに使った報告、海外における研究成果をふまえたもの、海外や国内各地での資料収集の結果をもとに報告したもの等、多彩で努力の跡がうかがえるものが多かったように思います。ただし、研究史上の位置づけがまだ不十分なもの、内容を的確に反映したタイトルになるよう工夫を要するものなどがあったように思いました。いっそうの錬磨を期待します。

研究科長 木村 健二

2005年度入試の概要

◆推薦入学

- 全国推薦
2004年11月20日(土) 小論文
- 地域推薦
2004年11月20日(土) 小論文

◆特別選抜

- 無国籍者特別選抜
2004年11月20日(土) 小論文(日本語による)/面接

○社会人特別選抜

2004年11月20日(土) 小論文/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2005年1月22日(土) 小論文(日本語による)/面接

○外国人留学生

2005年1月22日(土) 小論文(日本語による)/面接

◆一般選抜

- 前期日程 2005年2月25日(金) 下関・大阪
前期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 最も得点の高い科目をさらに300点満点に換算し採用する。 2. 次に得点の高い科目を200点満点のまま採用する。 300点+200点	300点	
国際商学科	・外国語(必須) ・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地理歴史、公民、数学、理科から1科目採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 1. 外国語を300点満点に換算し採用する。 2. 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を採用する。 300点(外国語)+200点	300点	

○公立大学中期日程(旧C日程)

2005年3月8日(火) 下関・大阪・福岡
公立大学中期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、得点の高い順に3科目(3教科)を採用する。 200点×3	200点	
国際商学科	・国語(「国語Ⅰ・国語Ⅱ」のみ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含まないこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を採用する。 2. 1. で採用した科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目(2教科)を採用する。 200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程(旧C日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編入学 2004年11月20日(土) 小論文/面接

準硬式野球部中国地区大会優勝 全国大会出場を果たす



● 試合結果報告 ●

中国地区大学準硬式野球春季大会 1 部リーグ

- 5/1 対東亜大学戦 1-1△(久世宮芝グラウンド)
 5/2 対鳥取大学 5-5△(同上)
 5/8 対島根大学 7-1○(広大西条総合運動場)
 5/9 対岡大医学部 4-0○(同上)
 5/15 対広大医学部 14-3○(同上)

3勝2分勝ち点11

1週目2分、2週目2勝し、通算2勝2分となり、勝てば優勝の最終戦で見事コールド勝ちを収め、5年ぶりの1部リーグ優勝を飾り、8月13日から開かれる全国大会への切符を手にした。

第56回全日本大学準硬式野球大会(茨城県営球場)

下関市立大学 000001000 | 1 (下) 永田・田村
 松 山 大 学 000000220 | 4 (松) 大西・西村
 二塁打: 松村(下)

緊迫した投手戦が続き、6回に先制するも、7回に逆転され、8回にも駄目押しの2点を入れられ、接戦を制することができなかった。

大会を終えて

準硬式野球部 第41代主将 田 部 謙 典

私たち準硬式野球部は、4年生4人、3年生7人、2年生6人、1年生3人、マネージャー5人で活動しています。このチームは2部リーグからのスタートで、まず1部リーグ復帰を賭けた秋季リーグ戦において4戦全勝で優勝し、1部リーグへ再び咲きました。

そして、1部リーグ優勝、全国大会出場を目指し練習する中で、数々の衝突がありました。選手個々の個性が強く、細かいプレーにおいて、今までやってきた環境の違いから、意見が合わないことが何度もありました。しかし、これもリーグ戦優勝という一つの目標を達成するためには、避けては通れない道でした。そして、何度も衝突するなかで、真のチームワークが生まれ、今期の春の1部リーグ戦で優勝を勝ち取り、全国大会出場権を得ました。

全国大会出場を決めてからは、例年ではオフの期間も真夏の炎天下の中、練習に励みました。全国大会では、四国地区代表、松山大学と対戦し、1-4で敗れました。1回戦敗退でしたが、今回の経験を生かし、さらにより一層高いレベルの野球を目指し、選手一人一人が高い目標を持ち、練習に励もうと思っています。

最後になりましたが、今回の全国大会で多大なるご支援下さいました、学校関係者の皆様、市大OBの皆様、また、下関市役所、企業の皆様どうも有難うございました。これからもご支援、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。



2004年度(春学)体育系サークル成績報告

最近、徐々にではあるが、本学体育系サークルの戦績が良くなってきた。以下に、今後のさらなる活躍を期待して、第51回関北インカレ春季大会をはじめ各戦大会で3位以上の成績をおさめたサークル、チームを報告する。

サークル名	大 会 名	種 目	成 績
弓 道	春季山口県内リーグ	男子団体	2位
弓 道	海峡戦(北九大との親善試合)	男子団体	3位
剣 道	第51回春季関北インカレ	男子個人	3位 渡辺 篤史
硬式庭球	春季中四国学生	男子複	2位 穴田・小野
硬式庭球	第51回春季関北インカレ	男子団体	1位
硬式庭球	第51回春季関北インカレ	男子単	1位 松永 貴成
硬式庭球	第51回春季関北インカレ	男子複	2位 松永・柳谷
硬式庭球	第51回春季関北インカレ	女子団体	2位
硬式庭球	下関オープン	混複	1位 穴田
硬式庭球	夏季中四国学生	男子複	1位 穴田
硬式庭球	春季北九州学生	男子単	1位 松永 貴成
硬式庭球	春季北九州学生	男子複	2位 松永・柳谷
硬式庭球	春季中国四国学生	男子複	2位 穴田
硬式庭球	中国学生	男子複	2位 穴田
準硬式野球	中国地区春季リーグ第1部		1位

少林寺拳法	第39回中四国学生	団体複式設外	2位	田中 琢一
少林寺拳法	第39回中四国学生	単独演武	3位	
少林寺拳法	山口県大会	一般初段	1位	
少林寺拳法	山口県大会	一般設外	1位	
少林寺拳法	山口県大会	一般式設以上	2位	中野 孝彦
少林寺拳法	山口県大会	一般式設以上	3位	
少林寺拳法	山口県大会	一般設外	3位	
少林寺拳法	山口県大会	一般設外	3位	
水泳愛好会	第34回中四国国公立大学	男子100m走	2位	西村 美由紀
卓 球	第51回春季関北インカレ	女子団体	2位	
卓 球	第51回春季関北インカレ	男子団体	3位	
軟式野球	西日本1部リーグ	野球	3位	
バドミントン	第51回春季関北インカレ	女子団体	2位	松本・池田
バドミントン	山口県学生春季	男子団体	2位	
バドミントン	第51回春季関北インカレ	女子複	2位	
バドミントン	第51回春季関北インカレ	女子単	2位	
バドミントン	第51回春季関北インカレ	男子団体	3位	松本 美穂
バドミントン	山口県大学高専春季Bリーグ		1位	
陸上競技	第51回春季関北インカレ	女子100m走	1位	
陸上競技	第51回春季関北インカレ	女子400m走	1位	
陸上競技	第51回春季関北インカレ	女子走り幅跳び	2位	西村 美由紀
陸上競技	第51回春季関北インカレ	男子100m走	3位	
陸上競技	第51回春季関北インカレ	男子200m走	3位	
陸上競技	第51回春季関北インカレ	男子三段跳び	3位	

穴田晃平君(硬式テニス部)、 全国大会へ

硬式テニス部の穴田晃平君(経済学科4年)が、ダブルスで、全日本大学テニス選手権大会に出場を果たした。山口大学の学生とペアを組んで、春の中国四国大会で準優勝し、出場権を得たものである。8月9日に行われた全国大会では、準優勝した日本大学のペアに1回戦であたり、苦戦したが及ばなかった。夏の中国四国大会では、ダブルスで優勝を飾り、ふたたび全国大会への出場権を得た。この冬に行われる全国大会での活躍が期待される。

サークル紹介

卓球部

部長 長谷川

型

私たち卓球部は現在1年生19名、2年生15名、3年生11名、4年生7名で活動を行っています。練習は毎週月・水・金曜日の18:00~21:30まで行っており、練習内容は基礎練習を中心に各個人のレベルに合わせた練習をしています。2004年度4月~9月までの大会成績は北九州・下関地区大学体育大会春季大会で男子団体が3位、女子団体が2位でした。個人戦の最高成績は男子シングルスがベスト16、男子ダブルスがベスト8という不本意な結果でした。

この大会では一昨年度まで男子団体が5連覇を達成していたのですが、去年から3位止まりとなっているので今年こそ優勝奪還することを目指しています。今は新戦力の成長がみられるので今後の練習次第では十分に果たせると思います。これからも頑張りますので応援よろしくお願いします。



セクシュアルハラスメント防止講習会

去る7月16日(金)2限目、学生向けセクシュアルハラスメント防止のための講習会が本学233番教室で開催された。講師は和光大学経済学部船橋邦子教授、テーマは「あなたがハラスラーにならないために―他者との豊かな関係をめざして―」、内容は①どんな人がハラスラーになりやすいか、②セクハラの種類とその発生の背景、最後に③未然防止の大切さとその対策についてであった。

全学年対象の講習会であるが、本年度は1年生の基礎ゼミ履修者を中心に呼びかけを行ってみた。学生70名(うち1年生47名)、教員7名、職員2名であった。学生の参加者が少なかったのは残念であり反省すべき点も出た(たとえば、大学院生への参加呼びかけ)が、当日実施したアンケート(回答者59名)を見ると、参加したためになったと考える学生がほとんど(52名)であった。

今後、今回の研修の効果が、参加学生を介して、全学的な啓発につながることを期待される。(末川 博司)

インターンシップ3年目

夏休みに実施したインターンシップ参加学生数は昨年度の28名から35名へと増加した。13の受入事業体の内、下関市役所の企画課・防災安全課が新規の受入をしてくれたため、市役所に12名(昨年7名)の学生を派遣できたことが大きい。市立大学の面目躍如である。本学のインターンシップは他と比べて、研修終了後に作成する報告書の負担感が大きいなどの不満も耳にするが、大学の正式な単位である以上、一定のレベルを保つためには致し方ない。もっと多くの学生が参加したくなるインターンシップを目指して、さらに充実した研修内容や企業開拓を図っていききたい。

(櫻木 晋一)



インターンシップに参加して

国際経済学科3年 境 真希

私は、就職について考えることで、職業意識を高め、秋から本格的に始まる就職活動に臨みたいと思った。そこで、インターンシップ(「愛グループ」)に参加した。

私は、インターンシップ中に、多くの方から職業観や体験談を聞いた。働くということは、アルバイトのように自分の為だけに働くのではない。お客様のことはもちろん、他の社員のことなど周りを考えながら働くことではないだろうかと分り始めたが、働くことの明確な答えは、簡単には見出せなかった。しかし、働くことについてしっかり考えることのできたこの時間が非常に意味深いものとなった。また、逆に社員の方から大学生活について聞かれることもあった。大学の外に自分の身を置き、学生生活を見直すことで、学生という、今のこの時間がいかに貴重なものかを改めて感じた。これからは、大学で徐々に過ごすのではなく、様々なことや人に積極的に関わり、貴重な時間を有効に使うべきだと感じた。その他、インターンシップを通して、自己の意見をはっきり主張することや利潤追求の重要性など多くのことを学んだ。

インターンシップに参加する前、私は自由な学生から社会人になることに恐怖感を抱いていた。しかし、インターンシップを経験し、働くことの大切さも実感したが、社会に出て働いてみたいと思うようになった。私自身、ここまで意識が変わるとは考えていなかった。インターンシップは、私にとって、プラスとなる良い経験となった。この経験を生かして、残りの学生生活を送りたいと思う。また、今後多くの学生にインターンシップに参加してもらいたい。



素敵な体験

国際商学科2年 百田 彩乃



2004年度海外語学研修。今年は、相原先生の引率で、Englandへ行きました。高校生の頃から、イギリスへ行くことを夢見ていた私は、その夢を叶える事ができました。

Englandに着き、まず感動したことは、テレビやポストカードでしか見たことがなかった赤いバスが走っているのを見たことです。見た目はすごくかわいかったのですが、実際に乗ってみると、日本とは違い、運転が荒く、酔ってしまいそうになりました。急ブレーキで人の足を踏みそうになったり、実際に踏まれたりと、苦い経験をしました。また、この研修を通して、たくさんの人と出会いました。研修に参加した1年生から4年生のみんな、2週間通った語学学校、道に迷ったとき親切に道を教えてくれた人達…。中でも、語学学校では、スペイン、イタリア、フランス、ドイツ、モンゴル、韓国、香港など、さまざまな国から英語を学びに来た人々と出会い、それぞれの国の訛りがあるものの、英語でコミュニケーションをとり、仲良くなりました。言葉の意味が通じなかったりして、時には辞書を使いその単語を習得しつつ話したりと、英語を学ぶことに対していい刺激になりました。

この研修を通して、このようにたくさんの人と知り合うことができ、また、日本とは違った文化を体験することもでき、人として、大きくなったような気がします。

韓国に行って

国際商学科2年 湯野 香子

私は語学研修で韓国に渡り、貴重な体験をしました。2週間という限られた期間の中で勉強だけでなく、驚き、カルチャーショック、楽しいこともたくさんありました。釜山の東義大学で、毎日5時間韓国語の勉強をしました。基本的なことから教わることができたので、今まで自分がうやむやにしていたことを基礎から見直すことができました。そして、色々な韓国の料理を食べ、買い物をして、また土日には、日本という京都にあたる慶州という所を旅行しました。そこは自然がたくさんあり、場所は昔の日本を思い出させ、懐かしい気持ちになりました。有名なお寺や歴史資料館を見学しました。歴史的な建物は日本とは異なり、色鮮やかで細かい工夫が施され、きれいでした。研修の間、東義大学の学生がチューターをしてくれ、私たちのお世話をしてくれました。最初に対面したときはお互いにどこかぎこちなかったけど、毎日顔を合わせるうちに、徐々に打ち解けました。海に行ったり、色々な話をしたり、最後別れるときはつらかったです。彼らは私たちのことを第一に考えて、親切にしてくれ、良い思い出がたくさんできました。本当に感謝しています。これから手紙やメール交換して、連絡を取り続けたいです。

向こうに行って、驚いたことは韓国の学生の熱心さです。勉強するときは勉強、遊ぶときは遊ぶと、しっかり区別をつけて時間を有効に活用している様でした。チューターが懸命に日本語で話しかけてくれたのですが、一年生の学生でさえ、自分の伝えたいことを日本語で話せます。そして、日本の歴史や文化を私以上に知っていました。私は日本人なのに、日本のことをあまりにも知らなさ過ぎることを実感し、とても恥ずかしいと思いました。

これから韓国語はもちろんのこと、日本と韓国の歴史や文化なども勉強して、もう一度韓国に行きたいと思っています。



同窓会
便り

「2004くまとの集い」 に出席して

佐々 由宇

下関市立大学同窓会の「2004くまとの集い」が7月24日に熊本キャッスルホテルで開かれました。これは、同窓会の全国的な集まりであり、熊本県支部長の江達征記氏を中心に1年がかりの準備を経て開催されたものです。

これには、東京支部をはじめ全国の各支部から同窓生が参集され、大学からは就職委員長である佐々が出席し、総勢141名の集まりになりました。席上私は大学の近況報告及び大学に対する同窓会からの日ごろのご支援に謝意を述べましたが、その後はプロ歌手の歌などを交えながら、旧交を温めつつ終始楽しく歓談いたしました。

周知のように平成18年度には本学創立50周年の節目を迎えることとなりますが、同窓会もそれに向けて何らかの企画を検討されているようです。それで、来年度はプレ50周年ということで下関で全国の集いを開催することが承認さ

れ、下関在住の北岡明氏が、喜んで引き受ける旨の決意を表明されました。

くまとの集いのキャッチフレーズは遠い日のあなたに会いに、でしたが、若い同窓生もたくさん結集して近い日のあなたにも会える集いになってほしいものであり、50周年の企画がそのきっかけになれば、と願っています。

全国各地で支部総会

このほか、全国各地で同窓会支部総会が開かれた。福岡県（福岡市、5/28）、岡山県（岡山市、6/6）、島根県（松江市、6/12）、大分県（大分市、6/19）、中部総支部（名古屋市、6/19）、長崎県（長崎市、7/3）、第34回東京馬関会（7/10）、広島県（広島市、8/28）である。

東京馬関会には、来賓6名を含めて、47名の参加者があった。江島市長による下関市の近況報告から始まって、真打の落語家による漫談、会員の紹介など、実に和やかで、笑いの絶えない楽しい夕べであった。若い世代の参加者も目立った。

共同自主研究で感じたこと

河野 雅 美(15年度経済学科卒業)

下関市立大学では「共同自主研究」という履修科目があります。この科目では、自分の希望する教員のご指導のもと、自分が興味のあることについて自由に研究することができます。私は4回生の時に4人のグループで中嶋健先生のご指導のもと、スポーツと経済との関わりについて学習し、「わが国におけるスポーツ用品メーカーの動向—「レジャー白書」、「スポーツ産業新報」の記事分析を中心に—」という論文を書きました。

私がこの論文を書きたいと思ったのは、陸上競技部員として大学生活を過ごし、色々な選手と接することでスポーツ業界に就職したいという夢を抱くようになったこと、また、就職活動でスポーツ関係の業界研究をし、様々な戦略が大変面白く感じたことがきっかけです。そこで論文では、スポーツ人口構造やスポーツ需要等、スポーツ用品業界をとりまく環境の変化をデータ化し、競技種目別(野球、水泳、テニス、陸上競技)にスポーツ用品メーカーの動向と今後の展望について、スポーツ用品産業業界新聞の記事分析によって明らかにしました。

論文を書くにあたり中嶋先生には、論文の書き方や研究の方法、論文の構成等をご指導いただき、そしてスポーツに関する大変貴重な楽しいお話を沢山伺うことができました。先生の研究室での授業が毎日楽しみでたまりませんでした。グループのうち、私以外の3人は当時2回生で、部活動や授業等、忙しい学生生活の中で沢山の時間を費やして多くの資料を集め、データを作成・分析していくことは、地道で大変な作業であったと思います。しかし、先生の熱心なご指導と、みんながスポーツが好きだという強い志を持っていたからこそ、最後までやり通せたのだと思います。

そして、私達がこの取り組みを始めるにあたり目標に掲

げていた「市大学生論集『赤馬』への論文掲載」を最後に達成し、私達は研究の楽しさと、一つのことをやり遂げた喜びを感じることができました。特に一緒に研究をした後輩3人にとっては、研究に対する視野が広がる等、残り2年間の大学生活に生かせる大変大きな意味を持つ経験であったと思います。

自分が興味のあることについて時間をかけて追求していくことは大変面白く、きっと今後にもつながっていくはずです。大学生活を充実させる経験の一つとして、是非共同自主研究をお薦めします。

新任教員挨拶

鈴木 陽一



10月1日に着任いたしました鈴木陽一と申します。専門は国際関係論で、これまで東南アジアの脱植民地化の研究などを行ってきました。現代人の生活は国境を越えた繋がりを前提に成立していますが、そうした国際関係の展開は政治経済上の様々な困難な問題を生んでいます。国際関係論とは、大まかに言って、そうした問題に立ち向かっていくための手掛かりのようなものを探る学問です。

私自身は生まれと育ちが信州、大学が東京の私大にて、海世界、西日本で暮らすのは初めてとなりますが、新しい世界のなか、私も自らを伸ばしていくことで、下関の皆様にご貢献できたと念じております。祖父が東京の私大を出て信州に戻るまでのあいだ当地の貿易商社で働いており、何かご縁のようなものも感じております。

未熟者ではありますが、微力を尽くす所存でありますので、皆様からのご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

世界中国語教育研修に参加して

山田 留里子(中国語担当)

中国の「第一世界」と称される北京・中関村のハイテクパークの前に立つと、さすがに圧倒される。この20年間に10%近い高度成長を成し遂げた中国のGDPが、世界第6位に躍進したことを象徴しているからだ。2020年には日本と肩を並べると、そこにいた中国人が誇り高く語りかけてきた。

中関村のすぐ近くには、北京大学や清華大学があり、その間に私が今回参加した世界中国語教育研修の行われた北京語言大学が位置する。「国家留学基金委員会」からフルフェローシップを頂き、研究者としての資格で、5週間にわたる研修に参加するチャンスを得た。

今回は約60名の参加者であった。スペイン、オーストラリア、フランス、イタリア、ドイツ、イギリスなどの欧州や、韓国、インド、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ベトナム、タイなどのアジア、また遠くはオーストラリア、メキシコで、エジプトからの先生が民族衣装を身に纏っていらしかったのが印象的であった。世界地図のどこにでも中国語があるのだと実感した。授業は朝8時から夕方4時までの集中講義並の充実したものであった。授業科目としては「語法と語法教学」「発音と発音教学」「語彙教学」「HSK」「ビデオ式教学」「中国文化」「漢字と漢字教学」「リスニング教学」「中国国情」「中国語レベルアップ」等(他に選択で「古代文学」「古代漢語」「現代文学」「教学概論」「言語学概論」が中国人教師用に設定され

ていた)ので、私は時間がある限り出席した)であり、まさに「豊富多彩」といふべき毎回の授業では、担当の先生方が熱意たっぷりに最新の中国語教授法を授業された。まさに「大学は教員で決まる」と確信した。さらに、「修了証書」を取得するには、「語法試験合格」と各種のレポートを提出しなければならず、修了式で「修了証書」を手にはできなかった先生方もいらしかったのは少し驚いた。幸い私は、専門が「語法」であるため試験で「秀」(市大と同じで、90点以上だそう)を頂き、学生時代に受けた試験を思い出しながら、内心ほっとした。

帰国前、市大の交流大学である北京大学中文系の先生から電話があった。「北京大学で世界大学生中国語弁論大会決勝戦があるのでご招待します」と。5日間に渡る弁論大会は、さすがに中国だと実感した。学生が生き生きしている。「青年を獲得するものが未来を有する」というヤスバスの言葉そのものであった。審査委員である私の恩師に「来年は、市大からも学生を出場させます」と伝えた。「文化」と「教育」の交流で世界のひとと人の間に永遠の「心の絆」を結んでいきたい、と強く思ったからだ。



第21回市民大学

◎実習講座

- 会 場：下関市立大学
- 中国語会話初級講座—ほんとうに初めての方々に—
講 師：張淑玲（下関市立大学常勤嘱託講師）
日 時：9月21日～12月21日（全12回）
毎週火曜日 午後6時30分～8時
定 員：20人 年齢問わず
 - 英会話上級講座—英語でしゃべり場：市大版—
講 師：内山 浩道（下関市立大学教授）
マーク・フリン（下関市立大学講師）
日 時：9月22日～12月15日（全12回）
毎週水曜日 午後6時30分～8時
定 員：20人 年齢問わず
 - 朝鮮語会話初級—これならわかる朝鮮語—
講 師：李 亮（下関市立大学常勤嘱託講師）
日 時：9月22日～12月15日（全12回）
毎週水曜日 午後6時30分～8時
定 員：40人 年齢問わず
 - コンピュータ中級講座
—自分でWebページを作成しよう—
講 師：森内 賢之（下関市立大学助教授）
日 時：10月4日～12月6日（全8回）
毎週月曜日 午後6時30分～8時
定 員：20人 年齢問わず
 - 健康・スポーツ講座
—脂肪サル、トリ戻すくびれ教室—
講 師：小笠原正志（下関市立大学助教授）
日 時：12月7日～1月18日（全5回）
火曜日 午前10時～12時
定 員：30人 25歳から80歳

◎連続テーマ講座

- 「生きる／「不安」の時代に」
ただでさえ、生きること自体が不安と裏合わせ。いま、私たちは、増幅された不安にさらされているといわれます。下関市立大学の教員6人が、その「不安」を直視して、なにが問題なのか、その原因はなにか、と追求して、「不安」を解きほぐすことをめざします。
会 場：下関市立大学B講義棟211教室
[講座]

- 第1回 11月5日（金）午後6時30分～8時
「経済学で目で見ると」
栗川 博司（下関市立大学助教授）
関野 秀明（下関市立大学講師）
- 第2回 11月12日（金）午後6時30分～7時30分
「今日の教育を考える三つの視点」
衛藤 吉則（下関市立大学助教授）
- 第3回 11月19日（金）午後6時30分～7時30分
「村上春樹文学における孤独と魂の救済」
上倉 一男（下関市立大学助教授）
- 第4回 11月26日（金）午後6時30分～7時30分
「「不安」と哲学的人間観」
西田 雅弘（下関市立大学教授）
- 第5回 12月3日（金）午後6時30分～7時30分
「心理学的観点から見た不安」
横山 博司（下関市立大学教授）
- 第6回 12月10日（金）午後6時30分～8時30分
パネル・ディスカッション「生き生きと生きる／」
（パネラー：講師全員、司会：遠藤誠一）

訃報

病氣療養中の松田福治教授（簿記原理、会計学原理担当）が、8月21日に急逝された。松田教授は、この4月に本学に着任されて、すぐに病氣療養に入られたが、10月より本格的に職場復帰が期待されていただけに、訃報は驚きであり、痛恨の極みであった。今はただ、先生のご冥福をお祈りするばかりである。

学会の開催

5月8日（土）、9日（日）に、日本体育学会体育史専門分科会の2004年度春の定例研究会が、本学で開催された。東亜体育大学、筑波大学、一橋大学、山口大学など、全国の大学から関係者約60名の参加があった。

9月25日（土）、26日（日）に本学で、日本リスクマネジメント学会第28回全国大会が開催された。統一論題は、「災害管理型リスクマネジメント」と「歴史に学ぶ危機管理—リスクと意思決定の観点から—」の2つであった。全国の大学から約50名の研究者が参加し、意義深い報告、活発な質疑応答が展開された。

第43回馬関祭

- 日 程 10月29日（金）から11月1日（月）まで
テ マ 観（わだち）
主な企画 10月29日 フグ鍋配布
10月30日 Soweluコンサート
11月1日 梨元勝講演会

問い合わせ先 大学祭実行委員会室 0832-53-0680

教職員異動一覧

新任教職員

氏 名	担当科目	前 任	着任年月日
鈴木 陽一 助教授	政治・経済学	上智大学	H.16.10.1
岡田 清弘 主事		徳島大学文化課	H.16.6.1
和田 真由美 主事		下北沢警察署	H.16.6.1
木村 昭恵 主事		厚岸町立図書館	H.16.6.1

異動職員

氏 名	異 動 先	異動年月日
千手 大輔 主事	財政部 納税課	H.16.6.1
岡崎 繁史 主事	保健福祉部 社会福祉課	H.16.6.1
橋本 浩二 主事	市民部 人権啓発課	H.16.7.1

昇任教員

氏 名	職 名	昇任年月日
大内 俊二	教 授	H.16.8.1
森内 賢之	助 教 授	H.16.8.1

行事記録（2004年6月～8月）

- 6月 1日（火）開学記念日
10日（木）国家公務員ガイダンス
17日（木）第1回就職ガイダンス
24日（木）入試説明会
- 7月 9日（金）春学期（前期）試験時間割発表
16日（金）春学期（前期）補講（～7/21）
18日（日）夏季集中講義開始
22日（木）インターンシップ（～8/31）
23日（金）夏季休業開始（～8/31）
31日（土）オープンキャンパス